

2000. 6. 21

また、第10回NEW看護学セミナーのご案内も一緒に同封しておりますが、セミナーへの申し込みは事務局とは異なり、別紙のとおりですのでお間違えのないようお願いします。

ののの第13回地方会学術集会 (in 山口) 報告記 ののの

第13回地方会学術集会が3月26日、野口多恵子実行委員長のもと山口県立大学看護学部を会場に地方会とはいえ、多数の参加者を集め開催されました。一般演題はポスターを含め60題におよび午前中いっぱい6会場に分かれて活発な討議がなされました。午後からは山口大学学長の廣中平祐氏より「看護と科学」と題する特別講演をいただき、世界的な数学者である氏の話に会場は皆引き込まれるようにして聞き入っていたようです。引き続いてシンポジウム「看護はQOLを向上させているか」では地元近隣でご活躍の佐間紀恵氏（山口赤十字病院）、馬庭恭子氏（YMCA 訪問看護ステーション）、河内山勉男氏（原田病院）、茶川治樹氏（岩国健康福祉センター）の4人の方々から、それぞれ総合病院での看護活動、訪問看護ステーションの活動、地域医療に携わる医師としての活動、健康福祉センターでの活動の立場からご発言いただき、いずれも日頃の実践や自らの病者体験に基づいての話に深い共感呼びました。しかしながら、残念なことに帰りの時間もあつてかシンポジウムでは500人収容の素晴らしいホールに空席が目立ち、少し寂しい感も致しました。

会場となった山口県立大学看護学部は学舎も新しく清潔で気持ちがよく、その上に、野口実行委員長をはじめスタッフの先生方、ボランティアの学生さんたちが皆ゆったりと落ち着いた対応をしてくださり大変くつろぎのある学会でした。（な）

ののの事務局よりお知らせ ののの

■近畿・北陸地方会との合同事業開催について

新しい会員の方には、なぜ、中国・四国地方会が近畿・北陸地方会と合同で学術集会ならびにNEW看護学セミナーを開催しているのか、その経緯についてご存じない方が多いと思います。日本看護研究学会の中に地方会組織ができたのは昭和60年のことです。当時の地方会の地区割りは、現在とは異なり、近畿と四国がひとつのC地区という地区割りになっていました。それが会員の増加に伴い、平成5年に地区割りが変更され、その結果、C地区は現在の近畿・北陸地方会と中国・四国地方会に分かれることとなりました。組織は分かれましたが、それまでの経緯もあり、また、別々に事業活動を開催するには当時はまだ中国・四国地方会は会員数が少なく、単独開催の準備が充分整っていなかったこともあり、平成5年度第8回学術集会から当分の間、学術集会とセミナーについては合同開催していくことが当時の世話人会で話し合われ現在に至っています。

しかしながら、現在では両地方会とも会員数は増加の一途にあり、両地方会を合わせると1300人を超える大所帯となっています。それだけに、学術集会、セミナーともに年々発展し充実したものになっている反面、その運営には経費がかさみ毎回事業担当者の方にはご苦勞をおかけするという問題が起きています。

同封のアンケートには今後の近畿・北陸地方会との合同開催についてもご意見を伺っておりますので、このような事情も鑑みて率直なご意見をお寄せください。（^_）

■世話人を募集します！

地方会の活動は世話人代表を中心とする世話人会でその方向性や企画などが話し合われ進められています。日本看護研究学会の会員で地方会活動に興味・関心のある方ならばどなたでも世話人になれます。世話人会は通常年に2回、夏の本学会と3月の地方会学術集会開催時に開かれています。ちょっと、覗いてみようと思われる方にはご案内を差し上げますので右記にご連絡ください。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

発行元

日本看護研究学会中国・四国地方会事務局

〒791-21 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543

愛媛県立医療技術短期大学内 TEL089-958-2111